

1 学校教育目標	
<p>人権尊重の精神を基調とし、主体的に学び、広い視野と深い知識を身に付け、思いやりの心と郷土愛により社会に貢献し、規範意識をもち、心身ともに健康で、たくましく生き抜く、次代を担う生徒の育成を目指す。 教育指針 「学ぶ 鍛える 思いやる」</p>	
2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像	
○学校像	<p>生徒の学ぶ意欲の伸長、学力の向上、社会性の育成を図ることができる学校 地域・保護者に信頼され、力を合わせて生徒を育成する学校 組織で課題解決にあたる学校</p>
○児童・生徒像	<p>向上心をもって粘り強く努力し続ける生徒 他を思いやる豊かな心をもつ生徒 「あじみこし」が身に付いた社会性のある生徒</p>
○教師像	<p>生徒の個性を理解し、よさを伸ばそうと創意・工夫する教師 謙虚に自己研鑽に励み、指導力を発揮する教師 組織の一員として教育活動に取り組む教師</p>
3 学校の現状及び前年度の成果と課題	
<p>1 学校の現状</p> <p>(1) 「地域立中学校」として定着している。</p> <p>(2) 自校作成の家庭学習ノートを活用して家庭学習に取り組む習慣を身に付けることができた。 全校で放課後補充教室に取り組み、AIドリルも活用し、基礎学力の定着に努めている。</p> <p>(3) 学校行事や生徒会活動・委員会活動等には積極的に取り組み、達成感も高い。</p> <p>(4) 地域行事をとおして、地域の町会や自治会・小学校・高校との連携が定着している。</p> <p>2 前年度の成果</p> <p>(1) 江南中学校の生徒が地域の将来を真剣に考え、その考えを的確に表現し、実現に向けて直ぐにでも動き出しそうな決意を創立70周年記念式典において多くの関係者の皆さんに見ていただけたことが令和5年度の一番の成果となった。</p> <p>(2) 時程の変更により朝読書の時間が確保され、落ち着いた学校生活の始まりを確保できた。</p> <p>(3) 全校体制での放課後補充教室の実施により、基礎学力の定着につながった。AIドリルや令和5年度版に改定したQubenaシートも活用した。</p> <p>(4) 小中連携を概ね元の形まで戻すことができた。</p> <p>(5) 消防隊活動の宮城小学校でのお披露目、2町会・2自治会のお祭りやチャイルドタウンフェスティバル、子どものハッピーイベント等、再開した地域行事にボランティア生徒を募り概ね関わることができた。土曜授業度の地域清掃も継続した。</p> <p>3 前年度の課題</p> <p>(1) スマートフォンの1日の使用時間は5時間を超える生徒が多く、自らの行動を制御できる考え方や手段を学活等で提示しつつ、学びの楽しさを伝えられる授業改善を目指す。</p> <p>(2) 家庭学習ノートについては、発展的なものの見方や考え方ができる基礎となる、記憶しなければならない知識を覚えるためのノートとして活用していく。放課後補充教室については、学び合いの時間を増やし、人に教えることで更なる学力の定着を強固なものとする。学び合いのルールについても校内で統一し、全学年のものとする。</p> <p>(3) 苦手なものを避けることで大きな成長の機会を逃してしまってる生徒も少なくない。苦手でも目標のためにやりきる学習が楽しく、充実感や達成感を得られることを体験させる。ストレスからの退避やメンタルトレーニングの方法について、スクールカウンセラーや養護教諭とともに指導していく。</p> <p>(4) 「あじみこし」を生活指導の基本に据え、礼節をわきまえた礼儀作法等をさらに指導するとともに、競争心や向上心の高揚を図る。</p> <p>(5) 地域や家庭、関係教育機関との円滑な連携により、健全育成をさらに推進する。</p>	

4 重点的な取組事項									
	内 容	実施期間（年度） R:令和							
		R4	R5	R6	R7	R8			
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎			
2	小中連携を中心とした地域に根ざした教育活動の実践	◎	◎	◎	◎	◎			
3	生徒による主体的な活動の推進・キャリア教育の促進	○	○	○	○	○			
5 令和6年度の重点目標									
重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題		達成度 ◎○△●			
全教科において足立スタンダードに基づいた活用型授業を展開することで、主体的に学び、深く考え、表現することができる。		R6区学力調査達成率 65% 到達度確認テスト(1月) 正答率 65%							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの 程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	授業改善	全教科	年間	①管理職による授業観察 ②小中連携による教科ごとの研究授業 1回 ③江北ブロック合同研修会 1回 ④区中研教科部会への参加 ⑤学力定着推進員と管理職による授業観察 国語、数学、英語科教員 ・教科指導専門員による指導	①自己申告面談にて授業の講評を行う ②教科ごとに成果発表 ③自教科の授業を参観し、協議会に参加する ④教科部会で得た情報を基に授業の改善を行う ⑤授業観察後の協議会 専門員との振り返り	①全教員年2回 ②全教員年1回 ③全教員参加 ④全教科部会参加 ⑤対象教員年1回 教科ごとに決められた回数			

継続	朝読書	全生徒 国語	毎日 朝 10 分	国語科及び担任 ・毎朝 10 分間読書に取り組ませる。 ・語彙を増やすための読書記録	読書冊数	1 人 10 冊以上 語彙力を高める			
継続	放課後 補充教室	全生徒 英・数中心 に 5 教科	毎日 放課後 25 分	全教員 ・AI ドリルを活用 →Qubena シートによる振り返りの確認 ・区調査や 5 教科の単元終了時に実施する、スモールステップテストの結果に基づく学習内容	到達度確認 テスト(1 月)	正答率 65%			
継続	コンテスト	全生徒	年 3 回	全教員 ・国語 7 月 英語 12 月 数学 2 月	練習プリントで 学習してから コンテスト	合格点 80 点とし 合格率 80%以上 個人目標値設定			
継続	家庭学習	全生徒	毎日 強化週間 定期考査 前 4 回	家庭学習ノートを自校作成 担任が毎日点検 1, 2 年 2 ページ 3 年 4 ページ	提出状況 ノートの内容	提出状況 100%			

重点的な取組事項－2		小中連携を中心とした地域に根ざした教育活動の実践			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
小中連携事業とともに、地域行事に積極的に参加し、郷土愛の心を育成する。	小中連携事業をとおして、円滑な接続を図る。 地域行事への参加率を高める。				
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域への貢献	「地域の行事に参加している」70%	・ボランティア活動等への参加 (消火隊、地域行事、地域清掃、吹奏楽演奏会等) ・生徒会を中心にボランティアを募り、地域清掃を行う。			

交流活動の充実	児童・生徒交流5回以上 新入生2学級確保	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動体験(小6) ・運動会への小学生参加(小6・小5) ・合唱コン練習小学生見学会(小6・小5) ・合同百人一首大会(小5・中1) ・サマースクール アシスタントティーチャー ・中3アシスタントティーチャー(2月) 			
授業以外の学力向上対策	漢検の合同実施	・漢字検定への小学生参加			

重点的な取組事項－3	生徒による主体的な活動の推進・キャリア教育の促進
-------------------	--------------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒が自分たちで学校を良くしようとする意識(愛校心)と自己肯定感をはぐむ。 キャリア教育に関わる取組をとおして、将来や今の自己の生き方について考え・表現できる生徒を育成する。	「学校に行くのが楽しい」80% 「大人になったときの夢や目標がある」70%			

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自尊感情を育む実践	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分にはよいところがある」65% ・「あじみこしを意識して生活している」80% ・各種表彰並びに掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が主催の「あじみこし」キャンペーンの実施 ・大会等上位入賞者の表彰や掲示 			
意志決定能力・キャリアプラン能力の伸長	<ul style="list-style-type: none"> ・働く人の話を聞く会1年、職場体験2年の実施 ・夢デザインシートの活用 ・「自分の好きな仕事につけるよう、勉強したい」80% 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く人の話を聞く会1年 職場体験2年 2日間 ・夢デザインシート記入 ・外部人材の活用 上級生から下級生へ 中学生から小学生へ 			
コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の伸長	<ul style="list-style-type: none"> ・「グループ活動やペア活動で話し合ったり、発表したりすることは好きだ」70% 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教科で言語活動を取り入れた工夫した授業の実施 ・プレゼンテーションソフトを活用した発表の充実 ・生徒会朝礼の充実 			
生徒会、委員会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・「行事・部活動に積極的に取り組んだ」85% 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒実行委員会を中心とした行事の運営や生徒会、委員会の主体的な活動の推進 			

6 まとめ

- | |
|--|
| (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性
(2) 保護者や地域へのメッセージ
(3) その他(学校教育活動全般について) |
|--|

